さわやかハイク山行報告書

通算山行NO	ＮＯ．８７	報告者	佐々木和雄
年　月　日	２０１０年 ８月 ６日（金）～８日（日）	２万５千	剣岳
山　　名	北アルプス・剣岳（２９９９ｍ）		

体力度＝５・難しい　技術度＝４・高　道標＝ある　駐車場＝ある　トイレ＝ある（小屋）
展望度＝素晴らしい　三角点名＝剣岳　等級＝三等

とにかく暑い・熱い、早月尾根

コース とタイム	**8月6日午前3：00**、農協発－＞10：13馬場島駐車場到着 ABC隊のｺｰｽﾀｲﾑ：馬場島出発10:28－ 940m地点11:00（休憩1）－1000m地点11:18－1070m地点 11:50（休憩2､エミさん撤退）－1200m地点12:10（休憩3）－1325m地点12:40(休憩4）－1495m地点（1600道標）13:19（休憩5）－1550m地点13:34（休憩6）－1690m地点（1800m道標）14:08－1775m地点14:25（休憩7）－1965m地点15：20（休憩8）－早月小屋着16：03　（先行D隊の早月小屋到着は15：20）
標　高 差	上り　馬場島登山口740m～早月小屋約2230m ＝約１４７０ｍ 下り　なし
参　加　者	講師：後藤隆徳、ＳＬ：井上弘二郎、近森正彦、渡辺正己、永尾　広、石和加代子 河野光江、村上充彦、村上美恵子、峰田光江、鈴木 仁、鈴木恵美子、増田眞理子 増田 吉信、村山忠彦、佐々木和雄＝以上１６人　（１名途中撤退）

一年越しの剣岳登山、やっとその時がきた。胸が躍る、アタックするコースに不足なし、天気も暑いが申し分なしだ。

今回、この山に挑戦する前に、映画“剣岳 点の記”やインターネットの山行記録を何度も検索参照し、剣岳登山に関する情報は十分に頭の中にインプットされていた。登る前から情報過多で、余計なことまで、あれこれといろいろ思いを巡らした。

標高差の大きい早月尾根の登り、カニのハサミ、カニの横ばいなど厳しく危険な岩稜帯へのチャレンジ、昨年鹿島槍ヶ岳から眺めたあの威風堂々とした剣岳にこれから登るんだと思うと嬉しかった。しかし同時にこれから始まる筋書きのない山行ドラマへの不安、自分の体力や事故・怪我に対する不安で複雑な気分だ。

来る前に、30年以上も前に剣岳に一緒に登った友人から、年寄りがそんなコースで計画するなよ、なんて指摘されていた。確かに今回のコースは昔20代の頃自分が歩いたコースよりも皮肉にも難コースだ、体力も落ちた６０代になった今、自分が歩くコースではないなと、客観的に思われても仕方ないと感じた。確かに、準備もそれなりにしてきたが早月尾根のきつく長い登りに対しては体力的に若干の心配はあった。また、不覚にも今年二度の雪渓での滑落経験をしているので、岩稜帯の歩行に対して、も不安のかけらみたいなものが胸の奥にあった。だから、常に油断せず、基本に忠実に、安全確実に、また暑さ対策をしっかりやらねばと思った。

登りコースは早月尾根を登り早月小屋（泊）経由、剣岳登頂を目指す、下りコースは前剣、一服剣、剣山荘、剣御前小舎、雷鳥沢を経て室堂までと、かなり手強い健脚コースだ。

この山行記録は初日の早月尾根小屋までの登りについて記することにする。

１日目　８月６日（金）晴

１０時２８分、馬場島登山口から出発。経験・体力・気力ともに充実したＤ隊が先行して出発。渡辺さん、仁さん、永尾さんだ。それ以降、彼らとは早月小屋まで会うことはなく、彼らの行動は不明だ。後で、Ａ・Ｂ・Ｃ隊よりも４０分程早く早月小屋に到着したと聞き、彼らの健脚ぶりに脱帽した。

Ｄ隊に続きＡ・Ｂ・Ｃ隊も、蒸し暑い熱帯のジャングルのような樹林帯の中へ出発した。風がなく非常に暑かった。

いきなりの急坂を２００ｍ近く上った９４０ｍ地点で、最初の休憩を摂った。約３０分くらいで２００ｍ登ったことになる。かなりハイペースである。

ここで、早めに水分補給、大体の人が 2.5 リットル程の水を持参してきているようだ。
私も、凍らしたペットボトル 500cc を４本と暑さ対策として、特製ジュース１本（500cc）を持ってきた。水は早月小屋で買えるので、２日目の水２Ｋｇは軽量化できた。水２リットル、800 円は高いが、ありがたい。

元気よく出発する（左から）仁さん、永尾さん、渡辺さん

最初の休憩地点から１０分程したところで、エミさんの体調が思わしくなく、途中棄権の意向を後藤講師に伝えてきた。そこで、しきりにダメ、ダメ、と続登を辞退していたエミさんをなんとか説得し、エミさんの水とか荷物を他の人へ分散して続登させることにした。

立山杉の横、その浮き出た根の上を登るＡ・Ｂ・Ｃ隊

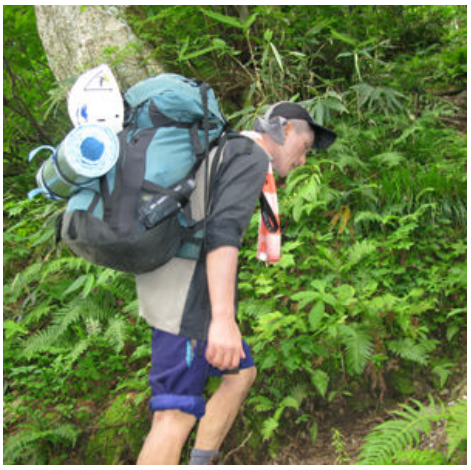
ところが、１１時１８分、標高 1000ｍの道標がある地点を通過し、１１時４９分標高 1070m 地点で、エミさんが完全ダウンした。ここで本人の意思を尊重し、残念だが勇気ある撤退となった。バスの運転手とはこの時点で携帯で連絡できていないことが心配ではあったが、登山口にある登山指導センターで連絡できるとの後藤講師のアドバイスがあり、エミさんはやむなくここで下山となった。（エミさん、山はいつでも待ってるよ～）

しかし、この撤退は結果的にナイスジャッジであった。あのまま歩いていたら途中ビバークなんてことになっていたかもしれなかったと、後で話題になった。

話が後先き逆転するが、我々が小屋に到着した後、４０分ぐらい経ってから雨が降り始め、おまけに霧が濃くなり、全く視界が利かない状況になった。この時点でまだ村上（充）さんと井上さんの２名は小屋に到着していなかったのだ。
僕も含め、先き到着組はビールで乾杯なんかしちゃったけど、なかなか到着しない、村上（充）さん、井上さんの安否をマジに心配する羽目となった。
遠くのほうから声が聞こえるぞ～、濃霧のときは音が頼り、いつの間にか、後藤講師が盛んに笛を吹いて小屋の方向を知らせていた。さすが・・・

１７時１１分に、我々から約１時間１０分遅れで体調不良の村上（充）さんとテント泊で１８Ｋｇの重荷を背負った登りが苦しかった井上さんが、濃霧の中から現れてきた。よかった、一同皆安心した。冷えたビールじゃなくて、暖かいものをやったほうがいいぞと、後藤講師の声。心配していた、恵美子さんもほっとしたようだった。
あの時エミさんを無理やり引っ張ってきたらこんなことでは済まなかったことは明白、あそこでのエミさんが撤退したことは大正解であった。

話は元に戻そう。
１２時１０分、標高１２００ｍの道標の地点で３回目の休憩をとった。なにしろ暑い、汗を拭いても、拭いても全身からの発汗が止まらない。のどが渇く、ペットボトルの水を飲んでも、飲んでも、のどが渇く。何度、暑い暑いって言っただろう。後藤講師が誰かに暑いって言ったって、涼しくならんのだから、もう暑いって言うなよ、なんて忠告する声が聞こえてきた。今回、珍しく後藤講師は小まめに休憩を取っていたので、我々としては大変助かった。
健脚の井上さんの息使いが苦しそうで、何キロ背負ってるんですか？と聞いたらなんと、１８Kg との返事、わー、それはきつい、とても僕にはできないと思った。
１０Kg でもかなり重いと感じている僕には信じられないことであった。ホントお疲れさまだ。その時、横にいた村上（充）も“僕も今日は苦しいよ”とのアピールがあり、村上（充）さんも大変辛そうに見えた。しかし、ここまできたらゆっくりでも小屋に登りきるしかないな。多分、彼らは大丈夫だろう、と思った。



１８Kg 背負った井上さん

こんなに大きな立山杉、右下に小さな峰田さん
実に対照的なワンショットだ